



CLOCKWORK STORY

EVILS THEATER

aKuNo

mothy

EVILS THEATER

mothy

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

2009 mothy All rights reserved.
AKNP-0001
Pressed in Taiwan

1. 悪ノ娘
2. 悪ノ召使
3. 言葉遊び
4. ぜんまい仕掛けの子守唄
5. 置き去り月夜抄
6. 箱庭の少女
7. 悪食娘コンチータ
8. 10分の恋
9. リグレットメッセージ
10. Re_birthday
11. South North Story

廻り始める 唄と物語

EVILS THEATER

mothy

AKNP-0001

1. 悪ノ娘
2. 悪ノ召使
3. 言葉遊び
4. ぜんまい仕掛けの子守唄
5. 置き去り月夜抄
6. 箱庭の少女
7. 悪食娘コンチータ
8. 10分の恋
9. リグレットメッセージ
10. Re_birthday
11. South North Story

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

EVILS THEATER

mothy

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

2009 mothy All rights reserved.
AKNP-0001
Pressed in Taiwan

1. 悪ノ娘
2. 悪ノ召使
3. 言葉遊び
4. ぜんまい仕掛けの子守唄
5. 置き去り月夜抄
6. 箱庭の少女
7. 悪食娘コンチータ
8. 10分の恋
9. リグレットメッセージ
10. Re_birthday
11. South North Story

廻り始める 唄と物語

EVILS THEATER

mothy

AKNP-0001

1. 悪ノ娘
2. 悪ノ召使
3. 言葉遊び
4. ぜんまい仕掛けの子守唄
5. 置き去り月夜抄
6. 箱庭の少女
7. 悪食娘コンチータ
8. 10分の恋
9. リグレットメッセージ
10. Re_birthday
11. South North Story

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

EVILS THEATER mothy

AKNP-0001

1. 悪ノ娘
2. 悪ノ召使
3. 言葉遊び
4. ぜんまい仕掛けの守り唄
5. 置き去り月夜抄
6. 箱庭の少女
7. 悪食娘コンチータ
8. 10分の変
9. リフレットメッセージ
10. Re_birthday
11. South North Story

2009 mothy All rights reserved.

●このCDを権利者の許可なく複製等に使用すること、また個人的な範囲を超える使用目的で複製すること、およびネットワーク等を通して送信できる状態にすることは著作権法で禁じられています。

AKNP-0001

09-05-17
STEREO

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

EVILS THEATER

孤独な男「収集家」
彼が死の間際に作り上げたのは
小さな小さな映画館
上映される作品はただ一つ
彼の「収集品」を紹介する記録映画のみ

森の奥にあるその映画館が
誰からも忘れ去られた時

動き出すぜんまい
鳴り響く歌声

「収集品」達は自らの手で
新しい物語を作りはじめる

小さな小さな映画館
館長を務めるのは
彼が生前最も愛した
「ぜんまい仕掛けの人形」

そして主演は...

1. 悪ノ娘
2. 悪ノ召使
3. 言葉遊び
4. ぜんまい仕掛けの子守唄
5. 置き去り月夜抄
6. 箱庭の少女
7. 悪食娘コンチータ
8. 10分の恋
9. リグレットメッセージ
10. Re_birthday
11. South North Story

むかしむかしあるところに
恵逆非道の王国の
頂点に君臨するは
齢十四の王女様
絢爛豪華な調度品
顔のよく似た召使
愛馬の名前はジョセフィース
全てが全て彼女のもの
お金が足りなくなったら
恵民どもから搾りたれ
私に逆らう者たちは
粛清してしまえ
「さあ、ひざまずきなさい!」
恵の華 可憐に叫く
鮮やかな彩りで
周りの衰れた雑草は
嗚呼 裏切となり朽ちていく
暴君王女が怒するは
海の向こうの青い人
だけれども彼は隣国の
緑の女にひとめぼれ
嫁姑に狂った王女様
ある日大臣を呼び出して
鮮やかな声で言いました
「緑の国を滅ぼしなさい」
幾多の家が焼き払われ
幾多の命が消えていく
苦しむ人々の嘆きは
王女には届かない
「あら、おやつ時間だわ」
恵の華 可憐に叫く
狂おしい彩りで
とても美しい花なのに
嗚呼 刺が多すぎて触れない

1. 悪ノ娘

悪の王女を倒すべく
ついに人々は立ち上がる
鳥合の彼らを率いるは
赤き鎧の女剣士
つもりにつもったその怒り
国全体を包み込んだ
長生の戦で壊れた
兵士たちなど敵ではない
ついに王宮は埋まれて
家臣たちも逃げ出した
可愛く可憐な王女様
ついに捕らえられた
「この 無礼者!」
恵の華 可憐に叫く
悲しげな彩りで
彼女のための楽園は
嗚呼 もろくもはかなく崩れてく
むかしむかしあるところに
恵逆非道の王国の
頂点に君臨してた
齢十四の王女様
処刑の時間は午後三時
教会の鐘が鳴る時間
王女と呼ばれたその人は
一人半屋で何を思う
ついにその時はやってきて
終わりを告げる鐘が鳴る
民衆などには目もくれず
彼女はこういつた
「あら、おやつ時間だわ」
恵の華 可憐に散る
鮮やかな彩りで
のちの人々はこう語る
嗚呼 彼女は正に悪ノ娘

君は王女 僕は召使
運命分かっ 哀れな双子
君を守る その為ならば
僕は悪にだってややる
期待の中僕らは生まれた
祝福するは教会の鐘
大人たちの勝手な都合で
僕らの未来は二つに裂けた
たとえ世界の全てが
君の敵になろうとも
僕が君を守るから
君はそこで笑っていて
君は王女 僕は召使
運命分かっ 哀れな双子
君を守る その為ならば
僕は悪にだってややる
隣の国へ出かけたときに
街で見かけた緑のあの娘
その優しげな声と笑顔に
一目で僕は恋に落ちました
だけれど王女があの娘のこと
消してほしいと願うなら
僕はそれに応えよう
どうして? 涙が止まらない
君は王女 僕は召使
運命分かっ 狂おしき双子
「今日のおやつはブリオッシュだよ」
君は笑う 無邪気に笑う

もうすぐこの国は終わるだろう
終れる国民たちの手で
これが戦いだというのならば
僕はあえて それに逆らおう
「これを僕の手であげよう」
「大丈夫僕らは双子だよ」
「きつとだれにもわからないさ」
僕は王女 君は逃亡者
運命分かっ 哀しき双子
君を慰めたいのならば
僕だって同じ 血が流れてる
むかしむかしあるところに
恵逆非道の王国の
頂点に君臨してた
とても可愛い僕の姉弟
たとえ世界の全てが
君の敵になろうとも
僕が君を守るから
君はどこかで笑っていて
(ついにその時はやってきて
終わりを告げる鐘が鳴る
民衆などには目もくれず
君は私の口癖をいう)
君は王女 僕は召使
運命分かっ 哀れな双子
君を守る その為ならば
僕は悪にだってややる
もしも生まれ変われるならば
その時はまた遊んでね

2. 悪ノ召使

4. ぜんまい仕掛けの子守唄

わたしはいつでも ここにいるよ
いつものおどろきに ことばをおしえて

5. 置き去り月夜抄

母さん
この道はどんな幸せに続いているの？
そこでは
大好きなおややつをたくさん食べられるのかな？

父さん
この先に神様は待っているのですか？
どうして
そんな悲しい顔で僕らを見るのですか？

暗い森の中
本当は全てわかっていた
このまま進めば
もう帰ることはできないと

ふたりぼっち残された僕ら
まるでヘンゼルとグレーテル
お月様のわずかな光では
帰る道もわからない

僕らは歩く　さ迷い歩く
手掛かりがないわけじゃない
ガラスの小瓶　月に照らされ
ひかひかひかり　道を照らす
されどもそれが　正しい道か
僕らは知らず　ただただ歩く
やっと見つけた　僕らにはわかる
ここは魔女の家

さあ　悪い魔女をやっつける
燃えるかまどに放り投げろ
彼女がいなくなけりゃ僕らはきつと
幸せになれるはず

ねえ母さん　私をほめて
悪い魔女は倒したのよ

ねえ父さん　僕をほめて
魔女の自分も倒したんだ

それにしても
ここはどこでも落ち着く所だね
まるで昔から
住んでいたような気がするね

さあ「本当の」母さんと父さんに会いに行こう

6. 箱庭の少女

この部屋の中にはあなたと私だけ
二人で唄を歌い続けましょう
外の世界なんて知らなくていい
あなたがそれを望むなら

私はあなたを「父」と呼び
あなたは私を「娘」と呼んだ

歩けぬ私を気遣うあなた
部屋を美しいもので埋め尽くしてくれた

赤いガラスに
青のスクリーン
黄色い枠の二対の鏡

この部屋の中にはあなたと私だけ
二人で唄を歌い続けましょう
外の世界なんて知らなくていい
あなたがそれを望むなら

暗い寝室と窓の景色
それが私にとって世界の全て

あなたはいつでもやさしいけれど
外の世界のことは教えてくれない

部屋の小物達
私を笑う
「僕等と君は似た者同士」

るりらるりと私は歌うの
外の世界には聞こえないように
あなたのためにだけに歌ってあげる
私がそれを望むから

あなたの口から聞いた《戦争》という言葉

どうしてお部屋が燃えているの？

燃え尽きた屋敷から見つかったのは
孤独な男の亡骸と
焼け焦げた　ぜんまい仕掛けの人形

7. 悪食娘コンチータ

腐臭漂う背徳の館
今日もはじまる最後の晚餐
身の毛もよだつ料理の数々
ひとり食い漁る女の笑顔

彼女の名前はバニカ・コンチータ
かつてこの世の美食を極めた
その果てに彼女が求めたのは
究極にして至高の悪食

(敬い称えよ
われらが偉大なコンチータ
この世界の食物は
全てかああなたの為にある)

食らい尽せこの世のすべて
胃袋にはまだまだ空きがある
青白く輝く猛毒
メインディッシュのスパイスに最適♥

骨の髄までしゃぶり尽くせ
足りなければ皿にもかぶりつけ
舌先を駆け巡る至福
晚餐はまだまだ終わらない

今年に入って15人目の
お抱えコックがこう言うてきた
「そろそろお暇を買えませんか？」
まったく使えぬ奴らばかりね

(敬い称えよ
われらが偉大なコンチータ
裏切り者には
報いを受けていただきますよ!)

食らい尽せこの世のすべて
今日のメニューは特別製なの
青白く輝く毛髪
オードブルのサラダに丁度いい♥

骨の髄までしゃぶり尽くせ
足りなければ「おかわり」すればいい
ちよっとそこの召使さん
あなたはどんな味がするかしら?

いつしか顔はもぬけのからに
何にもないし 誰ももういない
それでも彼女は求め続けた
究極にして至高の悪食

食らい尽せこの世のすべて
彼女は自らの右手を見て
そして静かにほほ笑んだ

「バガ ダブルだ! アリバイナイ」

コンチータの最後の悪食
食材はそう 彼女自身
食を極めたその身体の
味を知るものはすてにいない

8. 10分の恋

君に会えるのを願って
一本早い朝のバス停
あくびを少し我慢してる

名前も年齢も知らない
話しかけることもできない
君のことをもっと知りたい

出発10秒前の時(ドアが閉まる)
駆け足で君が(やっど)
バスに乗り込む(会えたね)

走れバスよこの恋乗せて
今はまだ何もできない
臆病な思い
信号待ちも今ほうらしい
目的地までの
たった10分の恋

斜め右2メートルの距離
こんなにも近くにいるのに
遠く感じるのはなぜだろう
(話しかけようかな?)
あの坂を越えたならもう
目的地まではもう少し
終わりを告げるチャイムが鳴る
(次止まります)

本当に好きなのかさまだ(ドアが開く)
わからないうけれど(君に)
今はただ...

走れバスよこの恋乗せて
今はお別れね でもきつと
また会えるよね
いつかこの思い伝えたい
その時までは
たった10分の恋

9. リグレットメッセージ

街はずれの小さな港
一人たたずむ少女

この海に昔からある
ひそかな言い伝え

「願いを書いた羊皮紙を」
「小瓶に入れて」
「海に流せばいつの日か」
「想いは実るでしょう」

流れていく ガラスの小瓶
願いを込めたメッセージ
水平線の彼方に
静かに消えてく

君はいつも私のために
なんでもしてくれたのに

私はいつもわがままばかり
君を困らせてた

願いをかなえてくれる君
もういないから
この海に私の想い
届けてもらうの

流れていく 小さな願い
涙と少しのリグレット
罪に気付くのはいつも
全て終わった後

流れていく ガラスの小瓶
願いを込めたメッセージ
水平線の彼方に
静かに消えてく

流れていく 小さな願い
涙と少しのリグレット

「もしも生まれ変われるならば
」

目覚めたとき僕はひとり
黒く塗りつぶされた部屋
何も見えず 何も聞こえず
一人震える闇の中

天井には大きな穴
よく見ればそこには巨大なぜんまい
その先から突如響く
得体の知れぬ不気味な声

「罪深き少年よ
お前はどの先永遠に
この部屋からは出られぬ」

と言った

瞬間 思い出した全ての記憶
自らが重ねた罪の数々を
ここにいる理由と結末に気づいた
もうあのころには戻れないのだと

気づけば両腕にはめられた赤い手錠
それはきつと誰かの流した血の色
面の足首には青い色の鎖
それはきつと誰かの涙の色

「るりらるりら」 聞こえてきた歌は
誰か歌う子守唄だろうか...

どれほどの時が流れただろう
動かぬぜんまいに尋ねた
どこからともなく聞こえてくる
歌声だけが僕を癒す

ある日僕は気づいてんだ
その歌の真実の意味を
そして僕は子守唄に
新しい言葉を付け足した

ぜんまいの隙間から
落ちてきた小さな光
それはきつと

一君がくれたメッセージ

廻り始めたぜんまいは静かに語る
「罪が消して許されることはない」
「ただ水という言葉 愚という言葉
僕らはそれらを唄へと変えよう

赤い手錠外れ 僕に語りかける
「これからあなたは生まれ変わるのよ」と
青い足枷外れ 僕に話しかける
「今日が君の新しいBirthday」

すべてが廻りそして白く染まる
もうすぐ君に会いに行くよ

10. Re_birthday

11. South North Story

ここはどこだったかな？
わたしはなれたったかな？
色のない地図を広げて
南へ 南へ

あの子はどこへいったのかな？
「あの子」ってだれだったかな？
よく知らない人を探して
北へ 北へ

誰かが気まぐれに作り上げた交差点
気づかなければ 通り過ぎていた
「こんにちは」「こんにちは」
「はじめまして」「はじめまして」
「ごきげんいかがですか」

よく似てるけど すこし違うそんな二人が
こうして出会ったのも 何かの縁でしょう
少し立ち止まって お話でも
ここでしていきませんか 二人で

街はもうはるかかなた
私が出会ったのは
「鏡の中の自分」ども
違う私で

同じ姿 同じリボン
こっそりといれかわっちゃっても
判らないかもしれないねと
二人で笑った

南で私は学生でした
北では国がひとつ滅びました
うれしい事 悲しい事
ひとつひとつ 聞かせあって
最後には笑いました
よく似てるけど すこし違うそんな世界が
こうして出会ったなら 何かが変わるかな？
自分らしく 人と違う 道を選ぶ
それも間違いないけれど

the worlds just cross
the worlds just gone
it is simply foreordination

no reason for us
but we are here
so "nice to see you"

we're just alike
we're not the same
it is simply you and me
no reason for us
but we are here
"it's time to go"

そろそろ お別れの時間だね
楽しかったよ 「もう一人の私」
バイバイ またいつか機会があれば
この交差点で...

superbia

*

invidia

*

ira

*

acedia

*

avaritia

*

gula

*

luxuria

music & lyric: mothy

illustration: ichika

English lyric & arrange: uniMemo<track11>